

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	糖尿病と肝癌～エピジェネティクス変化による発癌機序の解明～		
2. 対象患者	弘前大学附属病院、青森県立中央病院、八戸市民病院、市立函館病院において、非ウイルス性肝癌の手術治療を受けた患者さんを対象として実施します。		
3. 対象となる期間	2005年 1月 1日 ～ 2016年 4月 1日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院消化器外科、弘前大学分子病態病理学講座		
5. 研究責任者	氏名	梅津 誠子	所属 弘前大学消化器外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	青森県立中央病院 黒滝 日出一、八戸市民病院 矢嶋 信久、市立函館病院 下山 則彦		
7. 研究の意義	肝細胞癌は、予後不良の疾患であり、癌対策上重要な疾患です。近年、ウイルス関連の肝癌が減少するかわら、非ウイルス性肝癌は増加しています。危険因子の一つに2型糖尿病があります。実際、糖尿病患者の死因第1位は悪性新生物で、なかでも肝癌が最も多くなっています。今回我々は、2型糖尿病による肝癌の遺伝子因子に対する影響に注目しました。肝癌の発癌や進展に関わる遺伝子因子の一つとして、DNA過剰メチル化という現象が知られていますが、このDNA過剰メチル化と2型糖尿病との関連性はいまだ報告されていません。このような遺伝子因子と2型糖尿病による肝癌発症の関係性が証明された場合、脱メチル化剤という薬により新しい治療応用の可能性が生じます。これまでの治療と組み合わせることで、更なる予後改善効果が期待できると考えています		
8. 研究の目的	肝癌発症進展における遺伝子因子、特に癌抑制遺伝子のDNA過剰メチル化に着目し、切除肝癌標本において2型糖尿病既往の有無による遺伝子因子への影響を検討し、その制御による新規治療法の確立を目指すものです。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合があります)	1. 肝癌手術時に摘出された肝臓を、ホルマリン固定し、通常の手術後検体と同様に切り出し後にパラフィン包埋した標本を使用します。 2. 組織標本を顕微鏡にて観察し、腫瘍部、腫瘍組織近傍正常部を同定し、パラフィン包埋された組織ブロックを薄切し、DNA抽出キットを用いてDNAを抽出、適切な処理後にPCR、電気泳動、シークエンスにてデータを収集します。*なお、受け継がれない遺伝形質であるエピジェネティクス変化のみを、本解析の対象とします。		
10. 個人情報の保護	課題経過中及び終了後において、調査結果については、研究目的以外に使用することはない、対象者の個人情報は外部に漏らすことはありません。本研究で得られた個人情報は、データの統計的分析にのみ使用され、学会発表においても個人を特定できる情報を削除し発表します。		
11. 利益相反に関する状況	共同研究者の一部は大鵬薬品工業株式会社、アステラス製薬株式会社、中外製薬株式会社、株式会社ヤクルト本社から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本研究の資金源としてではなく、これにより研究成果が歪められるようなことはありません。本研究は弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座の研究グループにより公平・公正に実施されます。また、本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座 梅津 誠子 (E-mail) satomakotoko@hirosaki-u.ac.jp		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080